

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら新川崎第二教室		
○保護者評価実施期間	2025年11月4日		～ 2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	情報共有が都度、細かく行うことができています。	毎朝の朝礼や昼礼、全体MTや個別支援計画策定会議など必要に応じてすぐ全体に共有できる体制を整えている。	現場にいる場合でも何かあれば速やかに連携し、安全に支援できる環境を作っていく。
2	プログラムの充実、そしてバリエーションがある。	毎月プログラムMTを全職員で行い、新しいプログラムを提案してくれたり、既存のプログラムはバリエーションや目的を変えて児童が飽きないよう、楽しく参加できるようにしている。	今後も「一度やったから飽きた」とならないように、柔軟に考え、職員で意見をたくさん出し合えるプログラムMTを展開していく。
3	将来について考える保護者会や勉強会に取り組んでいる。	こぼんを卒業後の将来に向けて今から何ができるか、職員含め保護者様とともに考える機会を定期的に設けている。	まだ18歳で卒業になった児童がいないが、卒業となったとき様々な情報提供ができる体勢を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室の構造が特殊であるため、年齢が上がるとともに活動の範囲や方法が限られてくる。	高学年や中学生、高校生とみんなが成長するにつれ、そして利用人数が増えるとなると教室が狭くなっていくと感じている。	机上作業と活動スペースと分け、また必要に応じてパーティションで仕切るなどして、児童に合った方法で活動に取り組んでいく、
2	地域の人や子どもとの関わりが薄い。	地域の方との交流の場を設けることが現状難しく、またコミュニケーションを円滑に進めていくことが難しいのが現状である。	事業所連携会議などを通して、他事業所の取り組みや考え方を吸収し、スモールステップで意識していきたい。
3			